花よりタンゴ

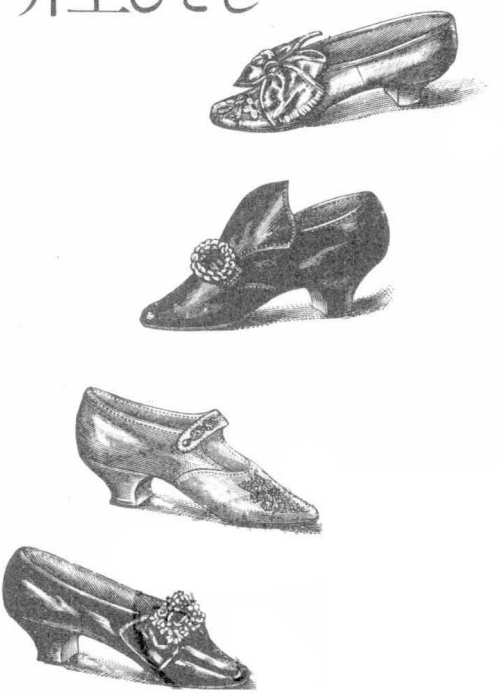
——銀座ラッキーダンスホール物語——

井上ひさし

化ケリタンゴ

―銀座ラッキーダンスホール物語―

井上ひさし



集英社

井上ひさしの本

きらめく星座
——昭和オデオン堂物語——

時は昭和十五～十六年。浅草のレコード店・オデオン堂の家族は、軍国歌謡と敵性音楽、軍国美談と非国民の間で大揺れに揺れる。太平洋戦争へと向う無気味な空気と、人間への希望を描く戯曲。昭和庶民伝第一弾。　定価６８０円

集英社

目次

第一幕
一　たずね人（びと）　7
二　不発弾　41
三　DDT　73
第二幕
四　取締（とりしま）り　103
五　停電（ていでん）　135
六　接収　167

装画　成瀬国晴

装幀　小林久太郎

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo

花よりタンゴ

——銀座ラッキーダンスホール物語——

登場人物

高山金太郎（四十一）

月岡蘭子（三十三）
藤子（二十六）
桃子（十八）
梅子（十八）

近藤勇蔵（三十一）

佐々木正子（二十九）

森川俊夫（十九）

花売娘（十五）

場所

銀座西七丁目の資生堂裏、銀座ラッキーダンスホール

時

昭和二十二年（一九四七）九月のおわりから十月はじめまでの一週間。

場割

第一幕

一　九月二十五日（木）午後四時

二　〃二十六日（金）　〃

三　〃二十七日（土）　〃

第二幕

四　九月二十九日（月）午後四時

五　〃三十日（火）午後十二時

六　十月一日（水）午後四時

第一幕

一　たずね人（びと）

開場と同時に劇で用いられる流行歌やタンゴ曲やジャズのポピュラーソングが客席やロビーに流れはじめる。ただし観客の邪魔にならないように低く薄く。

曲目は『愛のスイング』『やさしき花』『上海リル』『東京の花売娘』『警防団歌』『ブラブラムーン＋ブルームーン』『おひさしぶりね（イッツ・ビーン・ア・ロング・ロング・タイム）』『黒い瞳』『ラ・クンパルシータ』など。これらがメドレーで流れるうちに開幕五分前のベルが鳴り、やがて劇の主題曲『ジェラシー』（二分二十三秒）が聞えはじめる。この曲だけは充分な音量で。

曲の終結部分で場内は闇の底に沈み、暗い中で曲が終る。時計が四時を打ち、そしてピア

ノが『愛のスイング』（藤浦洸詞・平川英夫曲）のやや長い前奏を弾き出すともうすでに照明が入っている。

そこは銀座西七丁目、資生堂裏の「ラッキーダンスホール」のフロア。空襲で焼け残ったビル（四階建て）の一階を急いでホールに改造しましたということが一目で見て取れるような安手で安直な印象の空間である。

上手側は、楽士が五、六人も入ると腕が閊え、楽器がぶつかりそうなほど狭いステージ。ステージは床より一段高く、手前（より客席に近いところ）に竪型ピアノが置いてある。ほかに「銀座ラッキー」と刺繍した三角旗を前面に下げた不揃いな譜面台が四つ五つ。ステージ背後の壁に紙テープによる横書きで、「銀座ラッキーオーケストラ」。ステージの奥は、クロークや切符売場や入口へ通じている。

正面やや高いところに観音開きの窓が三つ。その下に一人掛けの椅子や古ぼけたソファが並んでいる。なお、窓のひとつの上に丸型の時計が架かっている。時計は、五場を除いて、場に照明が入るときは常に午後四時を示している。正面下手よりにドアがある。ドアには「ダンサー・楽士更衣室」と貼紙がしてある。

下手は壁だ。壁に大きく色紙細工で「銀座ラッキーダンスホール」。その壁を背に、一人

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbo

掛けの椅子が並んでいる。なお、このホールの一人掛けの椅子は、むやみに豪華なのがあったと思うと、劇中で勝手にスプリングが飛び出したりするようなボロボロのがあったりで、物資が極端に乏しかった昭和二十二年当時を忠実に映して、ひどく不揃いである。下手の手前に電話台と電話。そしてさらにその下手は、かつて華族（男爵）で、いまは典型的な斜陽族の月岡家の四人姉妹の居室へ通じている。

ピアノを弾いているのは森川青年。フロアのピアノ寄りのところに立って歌おうと身構えていた月岡家の三女桃子、不意にパチと手を打ってピアノをとめる。なお桃子は、桃色のロングドレスを身につけ、模造宝石を散らした踵の太いハイヒールを履いている。

桃子　遅いったら、森川くん。こうでしょう、ワン、ツー、ワンツースリフォー。

トより速いテンポを与える。森川が弾き直した前奏に大きく頷いて桃子は歌う。

屋根が見えます　赤い屋根が

あなたのお家は　河上よ
窓をあけましょう　白い窓を
私のお家は　河下よ
水にゆられて　花びらは　ネネネ
流れて来るけど　たずねて来るけど
まい日待っている　愛の歌は
どこかの岸辺で　消えたのね

やや長めの間奏。その間に、下手手前の居室から濃紫のロングドレスを着た長女の蘭子と、上手奥から細く切った紙切れ二片と糊とを持ち薄藤色（薄紫）のロングドレスの次女藤子とが同時に登場して、三人による短い会話。

蘭子　桃子（卜壁の丸時計を指し）、レッスンの時間よ。
藤子　蘭子ねえさん、桃子がコロムビアの試験を受けるんだそうよ。
桃子　オーディションといってよ、藤子ねえさん。

蘭子　いつなの。

桃子　葉書で知らせるっていってた。

蘭子　没落斜陽の元男爵家の令嬢、新人流行歌手として再出発！　少くとも宣伝は効くわね。それだけでも受かるかもしれないな。

藤子　桃子なら実力で受かるわよ。

桃子　理由はどうだっていいんだ、レコード歌手になれさえすれば。きっとヒットを飛ばすんだ。ラジオにも出るの。劇場を実演ショーで満々員にするんだ。そうしていやっていうほど稼ぐんだ。そうすればこのホールの家賃だってきちんきちんと払えるじゃない。

藤子　そうなったらほんとうにすてきね。

蘭子　（二人に）思うようにはならない、それがこの世の規則よ。

藤子　（祈るように）本気で願えば、どんな願い事もかならず成就するわ。

蘭子　あなた、小説本の読みすぎよ。（桃子に）梅子は？

桃子　まだ学校じゃない？　あの子、ガリ勉屋さんだから。

桃子が二番の歌詞を歌う間の蘭子と藤子の動きは対照的である。はじめのうち蘭子は時間

通りダンスのレッスンが出来ないことに軽く腹を立てているが、間もなく身体が桃子の歌に反応して、姿なきパートナーを相手に格調正しく正確に社交ダンスのステップを踏みはじめる。追い追い分明になることだが蘭子は社交ダンスの名手だ。一方、藤子はステップを踏む姉や歌う妹をときどき微笑を泛べて見やりながら窓ガラスに走ったひび割れを持っていた紙片と糊とで修理する。

風はそよ風　みどりの風
あなたのお家は　南がわ
カーテンあけましょう　愛のベランダ
私のお家は　夢ごこち
声をひそめて　歌っても　ネネネ
きこえるはずよ　歌ってちょうだい
やさしいお声で　愛の歌を
こころをしずめて　きいてますわ

そこへ末の妹の梅子が帰ってくる。女子学習院の制服。目立たぬように継布が当ててあって古びてはいるが、しかし清潔。梅子は風呂敷包をかかえている。

梅子　ただいま。

蘭子　おそい！

梅子　そんな北海道まで聞えそうな声出さないで。

藤子　はやく着替えていらっしゃい。

梅子　お友だちとお教室に居残りしてお勉強してたの。（風呂敷包から薄っぺらな雑誌を出して）ね、わたし、蛍雪時代に名前が載ったのよ。ほら、ここ。

藤子　（読む）「蛍雪時代・秋の全国一斉模擬試験」……。

梅子　九百二十三番、月岡梅子、女子学習院高等科。

藤子　ほんとうだわ。

桃子　梅子が九百ナン番だなんておかしいじゃない。梅子は高等科のトップなのに。

梅子　受験者が二万以上もいたの。

桃子　二万名の中の九百ナン番てわけ？

梅子　そうよ。
桃子　じゃあ出来過ぎ。まぐれだね。
梅子　もう宿題やってあげないよ。
蘭子　タンゴが鳴る！

妹たち、すこし驚いて姉を見る。なお、このすこし前、煙草売りの佐々木のおばさんが登場。端っこの椅子に腰を下して、買物袋の中から煙草を取り出して数えはじめる。もんぺに中古のズック靴といういでたち。

蘭子　お客様がフロアの中ほどへ進み出る！……ところがどう、このホールは？　二十名近くもダンサーがいるのに、タンゴのお相手のできる女は五人といないじゃない。そのくせブルースみたいな、だれにでもできるやさしいダンスになると戦災孤児の髪の毛の中の虱みたいにぞろぞろとフロアに出てくる。みっともないじゃないの。あのね、フォックストロットやクイックステップはむずかしいから、これは踊れなくともよろしいの。けれどせめてワルツやタンゴぐらい踊れなくてはダンサーとはいえない。梅子は来年か

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbo